

第3回 施設整備基本構想検討委員会 議事要旨

開催日：令和7年7月23日（水）14：00～15：45

場所：蕨戸田衛生センター組合 リサイクルフラワーセンター

出席者：

委員：（学識経験者） 長森委員、八鍬委員

（市民代表） 植田委員、遠藤委員、市村委員、細井委員

（蕨戸田衛生センター組合連絡協議会） 郷戸委員、永井委員、高橋委員

（蕨市、戸田市及び組合職員） 小柴委員、香林委員、根津委員

事務局：（蕨戸田衛生センター組合）

山本次長、甲斐総務課長、上嶋施設課長、菊池施設課長補佐、

青木係長、岡崎主任技術主査

関係者：（株式会社エイト日本技術開発） 王、渡邊、勝見

欠席者：なし

配布資料：

資料 1：中間答申書（案）

資料 2：可燃ごみ処理方式の検討

資料 3：し尿処理方式の検討

資料 4：メーカーアンケート調査の概要

報告資料：蕨戸田衛生センターにおける火災の発生について

報告資料：美女木向田地区のまちづくりの現状について

1. 開会

2. 報告

（1）令和7年7月12日に発生した火災の状況について

- ・事務局より、報告資料「蕨戸田衛生センターにおける火災の発生について」の説明。
- ・7月12日（土）の12時30分頃に知り合いから火災の連絡を受けて、戸田市長に連絡してみたところ、戸田市長にはまだ連絡がいつてなかった。戸田市長は組合の副管理者であるため、非常時には必ず副管理者にも一報するようにしてほしい。戸田市議会の議長、副議長にも連絡し、市議会でも本件を話していただくようお願いしている。（委員）
→ 戸田市長にご連絡いただき、感謝申し上げます。当日の対応状況により、連絡が遅れてしまった可能性があるため、連絡体制の見直しを検討する。（事務局）
- ・出火原因は不明とのことだが、近年リチウムイオン電池が原因で発火する事故が多いため、新施設での対応方法について、何ができるかを考えながら進めていただきたい。（委員長）

(2) 都市計画区域の確認結果について

- ・事務局より、報告資料「美女木向田地区のまちづくりの現状について」の説明。

3. 議題

(1) 中間答申案について

- ・事務局より、資料1「中間答申書（案）」の説明。
- ・委員会でこれまで議論してきた内容に基づくものとなっているため、本内容で答申書を提出してよろしいか。（委員長）
 - 答申書として提出してよい。（委員一同）

(2) 可燃ごみ処理方式について

- ・事務局より、資料2「可燃ごみ処理方式の検討」の説明。
- ・可燃ごみ処理方式について、焼却方式が基本と考えていたが、メタン・コンバインド方式（乾式）も候補として抽出されている。メタン・コンバインド方式では、悪臭基準は満足していても、少し臭う印象がある。事例も多くないと思うが、メタン・コンバインド方式（乾式）の場合は、本地域のように民家が近い中でも臭いは問題ないのか。（委員）
 - 臭いは出ると考えているが、メタン・コンバインド方式（湿式）の方がより悪臭が発生する。都市部だとメタン・コンバインド方式（乾式）を採用している事例が多い。東京都町田市ではメタン・コンバインド方式（乾式）を採用しており、メタン発酵施設（乾式）が50t/日、焼却施設が258t/日と、焼却処理の補助的な役割でメタン発酵（乾式）を整備している。（事務局）
 - 町田市では、臭気について苦情等がないのか。（委員）
 - 本組合で、メタン・コンバインド方式を採用する場合は、十分な能力の脱臭設備を設ける等、細心の注意を払う必要があると考えている。（事務局）
- ・既存施設は焼却方式（流動床式）で、3炉構成ということは流動床炉が3炉あるということか。（委員）
 - その通りである。各炉のメンテナンス等を踏まえてローテーションを組んで運転等を行っている。（事務局）
 - 新施設を整備する場合も、3炉整備することになるのか。（委員）
 - 事例によって炉数は変動するが、安定稼働やメンテナンス等を考慮し、2炉か3炉構成の施設事例が多い。3炉構成だとローテーションによる運転が可能だが、その分費用やスペースがかかるため、総合的に検討する必要がある。（事務局）
 - 複数炉構成とする場合、町田市のように、焼却施設とメタン発酵施設など、炉ごとに別の方式を採用する想定もあるのか。（委員）
 - 今回抽出した3つの処理方式は一次選定結果であり、どの方式を採用するかは未定である。今後の計画において、アンケート調査に基づくプラントメーカーの意向や必要な敷地面積、配置等を踏まえて検討する。（事務局）
 - プラントメーカーから、望ましい処理方式について提案を受けるということか。（委員）

- その通りである。また、プラントメーカーの提案に加え、町田市のようなメタン・コンバインド方式だとメタンガスを回収し、貯留するためのガスホルダーも必要になり、必要面積も多くなるなどの、施設ごとの特徴も踏まえながら検討する。(事務局)
- 図を見ると、焼却方式（ストーカ式）は横に長く、焼却方式（流動床式）は縦に長いように見えるため、焼却方式（流動床式）が一番小さい面積で整備できるのか。(委員)
- その通りである。ストーカ炉はある程度大きなごみも入れられるが、流動床炉は小さく破碎しなければ入れられないなどの、それぞれメリット・デメリットも含めて検討していく。(事務局)
- ・ 3 方式のイニシャルコストはどの程度異なるのか。(委員)
 - これから実施するプラントメーカーへのアンケート調査にて処理量や候補地の条件等を提示してイニシャルコストを回答してもらう予定であるため、現時点では価格差は整理していない。ただし、プラントメーカーの提案によっては、回答がなされない処理方式も出てくる可能性がある。(事務局)
- ・ 最終処分量を少なくしたい自治体では灰溶融等が採用される場合があるが、灰溶融が必須ではない自治体では概ね今回と同様の 3 方式が採用されるため、妥当な方式であると考えている。可燃ごみ処理方式の一次選定結果は、本 3 方式でよろしいか。(委員長)
 - 一次選定結果としては本 3 方式としてよい。(委員一同)

(3) し尿処理方式について

- ・ 事務局より、資料 3「し尿処理方式の検討」の説明。
- ・ 焼却方式のストーカ式や流動床式では、炉の立上げ時にしか燃料を使わないとのことだが、汚泥再生処理センターで資源化した助燃剤は炉の立上げ時のみ使用されるのか。(委員)
 - 現在、焼却炉の立上げ時には灯油を用いている。汚泥再生処理センターにおける助燃剤化は、循環型社会形成推進交付金の交付要件に合致する資源化方式であり、汚泥の含水率を 70%以下にすることで、助燃剤として扱うことができる。現在も、し尿処理施設から発生する脱水汚泥（含水率 70%以上）を焼却施設の処理対象物としているが、助燃剤とすることで焼却がしやすくなる。炉の立上げ時の燃料としての利用は難しいが、現在の処理と概ね同様の方法で資源化として取り扱うことが可能となる。(事務局)
 - 助燃剤として有用性があるというのではなく、あくまで資源化方式の一つとして助燃剤という扱いにできるということだと認識している。既存の焼却施設は流動床式なので、水分が多いごみでも焼却が可能であるが、ストーカ式の場合は含水率を落とす必要がある。焼却施設の処理方式が決まっていない中で、助燃剤化の考え方はよいと思う。(委員長)
- ・ 堆肥化した場合、どのような堆肥ができるのか。園芸店等で販売可能なのか。(委員)
 - 現在実施している生ごみの堆肥化については、成分等を調査し、一定の基準を満足しているか確認した上で、埼玉県から認可をもらっているため、汚泥も堆肥化する場合は同様の手続きを行う必要があると考える。(事務局)

- 蕨市、戸田市は都市化が進み農家は少ないが、家庭で花壇等を作っている人はいるため、一般に販売を進めていけば堆肥の利用先が確保できるのではないかと。採算は取れないのか。(委員)
- 現在の生ごみ堆肥について、年間 50～60t ほど生産しているが、各市内ではさばききれず、姉妹都市に譲渡している状況にある。汚泥を堆肥化した場合は、堆肥の量が増えるため、全てをさばくのは難しいと考える。(事務局)
- 市民向けに販売することはできないのか。(委員)
- 需要がなくなり、売れなくなった場合、費用をかけて処分する必要性が生じてしまう。(事務局)
- 越谷市にある東埼玉資源環境組合では堆肥を 1kg あたり 10 円で販売しており、利用先は確保できるものの、採算は取れない状態で販売している。(委員)
- 他事例でも堆肥化の要望はあるが、資源化量に対して、将来にわたってどの程度の需要があるかの検討が重要となる。堆肥がさばききれず、とん挫した事例も多い。(委員)
- 肥料メーカーなどとタイアップすることは可能ではないか。(委員)
- そのような場合は、堆肥の販売ではなく、事業者へ委託費を支払って処理を委託する形となると考えられる。不可能ではないが、事業化の可能性も含めて検討する必要がある。(委員)
- 引き続き検討する。(事務局)
- ・ し尿処理方式の一次選定結果は、本 3 方式でよろしいか。(委員長)
- 一次選定結果としては本 3 方式としてよい。(委員一同)

(4) メーカーアンケート調査について

- ・ 事務局より、資料 4「メーカーアンケート調査の概要」の説明。
- ・ 調査対象メーカーについて、ごみ処理施設とし尿処理施設のどちらも対応可能というメーカーはあるのか。(委員)
- 1 社ある。(事務局)
- ・ 11 月の第 4 回委員会時には、アンケート調査結果の概要を示していただけなのか。(委員)
- その想定である。(事務局)
- ・ 調査項目のうち、希望するし尿処理方式は 3 方式から選択となっているが、資料 3「し尿処理方式の検討」で△評価とした方式も含むということか。(委員)
- その通りである。(事務局)
- ・ メーカーから回答を辞退される可能性はあるのか。その場合、回答数が減ってしまうのか。(委員)
- 辞退される可能性もあるが、今回の対象メーカーは実績等の要件に基づき抽出していることから、それ以外のメーカーは実績等が不十分と考えられるため、対象企業を追加する想定はない。(事務局)
- ・ アンケート調査はどういった位置づけか。今回の計画にどのように反映されるのか。(委員)

- 施設整備方針の検討の材料にすることに加え、他自治体でも同様のスケジュールで事業が進んでおり、公告時に応募者が確保できない可能性もあるため、早めにメーカーに情報を公開する意図もある。(事務局)
- アンケート調査の結果で処理方式を除外する可能性はあるのか。(委員)
- アンケート調査の結果、提案メーカーがいない処理方式は今後も提案される可能性が低いことから除外する可能性もある。(事務局)
- 基本構想段階でアンケート調査をやることはあまり聞かず、もう少し内容が固まってからアンケート調査を行うイメージであったが、メーカーへの情報公開の意図もあるということから理解した。(委員)
- 交付金対象事業として進めていくにあたり、国に事業の詳細を提示していく必要があるため、そのための必要な情報を収集する意図もある。(事務局)
- 今後の技術革新で、事業開始までにより良い方式が開発される可能性もあると考える。現段階の技術を調査するだけではなく、組合の意図を伝えるということであると理解した。(委員)
- ・ 電力収支について調査項目を挙げているが、今回施設の火災によって、受電設備が被害を受け、焼却施設、粗大ごみ処理施設、し尿処理施設が停止しているため、施設ごとに受電を分けることでリスク回避ができるのではないか。(委員)
 - 1つの敷地に受電の引込は1箇所という規定になっているため、複数の受電は難しいと考える。(委員)
 - 受電は1箇所になるが、電気設備の火災対策については、今回の基本構想ではなく、今後の検討段階で検討する必要がある。(委員長)
- ・ 焼却施設の整備にあたり、温水利用施設等ができればよいと思う。(委員)
 - 余熱の利用方法については、実現可能性等も考慮して、今後検討していく。(事務局)
- ・ 地元住民との合意形成のため、リサイクルフラワーセンターの花を配布してはどうか。(委員)
 - 本委員会も蕨戸田衛生センター組合連絡協議会から3名参加していただいているが、協議会を実施している。要望があれば、花の配布も実施しているため、引き続き連携していきたい。(事務局)

(5) その他

- ・ 第4回検討委員会は11月5日の14時からを予定している。開催場所は調整中のため、近くなったら改めてご連絡する。(事務局)

4. 閉会